信頼と実績 ハヤブサの船太刀魚テンヤシリーズ

船太刀魚乗せ型

★乗せて掛けるリアバランス設計
◉40、50号。全２色。エサ巻きワイヤー２本、リーダー１本付き

▶東京湾におすすめなのがこの３アイテム
▼FA、速掛はフッ素コーティングされているので、掛かりは抜群

船太刀魚テンヤ速掛型フッ素コーティングフック

★触れたら掛かる水平バランス設計
◉30、40、50号。全６色。エサ巻きワイヤー2本、リーダー1本付き

船太刀魚フリーアングルフッ素コーティングフック

★思いどおりのテンヤ姿勢に調整可能
◉30、40、50号。全６色。エサ巻きワイヤー２本、リーダー1本付き

▲終盤は1本釣るたびにカラーチェンジ。これはスクラッチベイト

▲本田さんは妖艶イワシで連発

▲「ドラゴンかも」と言いながら慎重なヤリトリ
◀船太刀魚テンヤ速掛バーストシュリンプがいい仕事をしてくれた

竿先がもたれたところで合わせると、見事ハリ掛かり。

上がったのは指幅４本サイズだが幸先のよい1本だ。本田さんも続けとばかりに「船太刀魚テンヤ 速掛型」の30号、妖艶イワシで同型を釣り上げた。「30号でも十分釣りになりますね。アタリも明確、引きもダイレクトです」とご満悦の2人。その後はテンヤのカラーを替えつつ、少しずつ数を重ねていく。

昼ごろから潮が速くなってきたのを機に、入稲福さんは「船太刀魚テンヤ速掛」バーストシュリンプの40号にチェンジ。しばらくしてガツンという重量級の手応えと、これまでにない強い引きに襲われ、船中最大となる待望のドラゴン120センチオーバーを取り込んだ。一方の本田さんも、次つぎとテンヤを替えながらドラゴンサイズのほか、指幅3～4本サイズを次つぎと取り込んでいく。

当日は猿島～走水沖の水深60メートル前後を攻め、終日底から45メートルの間でポツポツとアタリが続いた。沖揚がりの14時半まで2人ともツ抜けを達成、

「30～40号のテンヤでもオマツリも少なく、十分釣りになりました。カラーに関しても今日は平均して釣れましたね」と言いながら、満足げに船を下りるのであった。

東京湾奥長浦出船

★本田さんにも「船太刀魚速掛」妖艶イワシ40号でドラゴンサイズ

★ハヤブサテンヤ「船太刀魚テンヤ速掛」バーストシュリンプ40号で当日船中最大120センチオーバーのドラゴンをキャッチした入稲福さん

▶ハヤブサのタチウオテンヤ、３アイテムすべてに型を見た（上から乗せ型、ＦＡ、速掛）

信頼と実績、ハヤブサのタチウオテンヤ
東京湾のタチウオにも安定の釣果
40号メインの実釣での効果と実力

★ドラゴンサイズが手軽に釣れるとあって、相変わらず人気の東京湾テンヤタチウオ。釣果を左右するのはテンヤ仕掛けのセレクトも大切な部分。各メーカーからたくさんのテンヤが発売されているが、中でもハヤブサ製品は大阪湾での実績が評価され、多くのタチウオファンに支持されている。東京湾でもハヤブサ製品は定番となりつつある。

◀後半は走水沖の水深60メートル前後を狙った

▼こなや丸で用意されるイワシは特大サイズなので頭をカット

◀良型を手際よく取り込む本田さん

▶使用したのは30～40号のテンヤ各種

ハヤブサフィールドスタッフの入稲福佳寿巳さんと、ハヤブサスタッフの本田渉太さんが乗船したのは東京湾奥長浦のこなや丸。週2回、テンヤ専門乗合を出していて、30～40号のテンヤの使用が指示される。

「オモリは少しでも軽いほうがアタリも取りやすいし、楽しいでしょ。その代わり道糸はPE1号に統一させてもらってます」と店主の進藤通孝さん。

「テンヤのオモリは30、40、50号が基本。本場の大阪湾では通常40号を使用し、浅場で30号、深場や速潮で50号と使い分けています」とテンヤ事情に詳しい本田渉太さん。今回は比較的軽めのテンヤで東京湾のタチウオを楽しもうというわけだ。

右舷ミヨシに並んで席を取り、午前6時に出船。用意したのはハヤブサの「船太刀魚テンヤ 速掛型」、「船太刀魚テンヤFA（フリーアングル）」、「船太刀魚テンヤ 乗せ型」の3種、30～40号各色である。

まずは富津沖の浅場で様子を見るがアタリなく、猿島沖のタチウオ船団に合流。水深は58メートルで、「50～55メートルを狙ってください」で釣り開始。入稲福さんは「船太刀魚テンヤFA」の30号、カラーはバースト シュリンプをセレクト。55メートルから小刻みに誘いと止めを繰り返しながら巻き上げる。コツンのアタリがきて、そのままデッドスローを続け、